#### ウメの木の特性と花つきの剪定方法

ウメは、日本中にある落葉高木で、花木としての歴史はきわめて古く、 各地に自主品らしい群落が発見されるので、中国より渡来したという説と自 生説とがあります。

花を観賞することが目的のウメを「花ウメ」、実を採取することを目的のウメを「実ウメ」と呼びます。 実ウメを植えるときは、開花期の同じ品種を二本以上植えると実がつきやすくなります。

ウメの園芸品種は非常に多く、約三〇〇種以上ほど栽培されているといわれています。 ウメは花ばかりではなく、枝ぶりの面白さも鑑賞の対象となるので、花の咲き方や色、開花期のほかに枝の出方などの特徴をつかんでおかないと品種の特性を生かした整枝・剪定はできません。

分類の仕方は、人によってまちまちですが、ここでは樹形本位に考え、 次の四つに分けてみます。

### ウメの木の見方(樹形の特徴)

ウメを植える場合は、植え場所を考えて品種を選択します。

#### 野梅性(やばいしょう)

野梅の系統で原種の性状を持ち、丈夫で枝は細く、ときに刺状の 小枝を出し、分枝は密で早くからそう状(枝が細い、小枝が多いこと) になります。

### 豊後性(ぶんごしょう) 杏性(あんずしょう)

丈夫で枝は太くて立ち上がり、分枝は少なくて大木になります。

葉は、大きくて丸味を帯び、花は、一重、八重とも紅色系が多く、 大輪で美しいです。香りがなく遅咲きです。

杏性は、豊後性によく似ていますが、枝も葉もなんとなく小柄で、 葉の表面が滑らかです。

どちらも杏の性質を多分に受けています。

### 紅梅性(こうばいしょう)

花色が白でも紅色でも、枝を切ってみて髄の紅色のものは、みな紅 梅性です。

紅色が多く、特に濃紅のものは緋梅性といい盆栽でも人気があります。

# 枝垂性(しだれしょう)

枝の垂れさがる形質だけを取り上げてひとまとめにしたもので、 前記の各性の特徴を持つものに枝垂れの性質が加わったものです。

# 開花前、冬の枝の切り方

「ウメは、短い枝に花芽が付き、勢力の強い枝に花芽が付きにくい性質があるので、<u>徒長枝の扱いで枝ぶりが決まります</u>」

徒長枝を切り戻す 込みすぎ枝 を聞引く 垂れ枝 弱枝を切る 自然樹型 胴ぶきをとる  $2 \sim 4 \text{ m}$ 

ウメは、短い枝に花芽が付きます。

# 開花後、春の枝の切り方

「花がすんだら、葉芽の上の部分で切る」



# シダレウメの枝の切り方



### ○年間管理計画

1月	2月	3月	4月	5月	6月
コウヤク病の防除	開花はえ付け適期	切り戻し枝抜き剪定	ガッ ・ ガメケムシ駆除 アブラムシ駆除	974	実黄熟
除		3 剪定	123, 114		

# シダレウメの形は、剪定で決まる。



7月	8月	9月	10月	11月	12月
走長枝切り戻し 花芽分化(水やりは控	枝抜き軽剪定			<b>黄葉 落葉</b>	